

世相雑感

会員のページを新設しました。外交問題にかかわらず、何でも結構。ご投稿を歓迎します。

「私の夢」

坂本 重太郎 (顧問)

「上野発、夜行列車に乗れば・・・モスクワからロンドンへ」～私は北海道余市の生まれのせい、子供のころからシベリア大陸には果てしない夢を抱き続けている。北海道稚内市とロシア・サハリン州間の宗谷海峡を海底トンネルで結び、シベリア鉄道経由で日本と欧州を鉄路で結ぶのだ。津軽海峡の青函トンネルは延長53キロ、水深140メートルだが、稚内―サハリン間は43キロ、サハリン―大陸間のタタール海峡（間宮海峡）はわずか8キロ。宗谷海峡の水深は71メートルと青函トンネルの半分に過ぎない。技術的には全く問題なかろう。しかもタタール海峡には、スターリン時代にソ連がトンネル掘削を試みており、その既存設備が残ったままといわれる。専門家の試算によればコストも1兆円もあれば十分とか。将来のロシア側資源に対する経済効果や日本からの物流促進を考慮すれば、安いものだ。永年行き詰まっている領土問題もこれが実現すればアツという間に解決するかもしれない。これも私の夢だが・・・・。（了）

「戦略的な招待外交を」

(株)アテナ取締役会長 渡邊 順彦 (理事)

今年のトップニュースは2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定です。1964年の時は日本の戦後復興をスポーツ―大会で世界に誇示した祭典でした。また1970年に日本の国力と発展をアピールした大阪万国博覧会は、103,720,000人の国民を躍動させ万博観覧へ動員した国家イベントとして大成功でした。

その大阪万博開催時、政府は参加77カ国、4国際機関に対し日本外交史上に残る招待外交を展開。ナショナルデーセレモニーのテープカットを司る各国代表と団員一行25名を、1週間に亘り博覧会場及び日本各地の産業拠点や観光地を案内。外務省内ではこの接遇を5チームのプロジェクト編成で果たしました。その効果は言うまでもありません。

日本の再興を目指す今のアベノミクスインフラとその成果を、再び世界へアピールする日本外交上の施策として、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に併行して大阪万博方式の「招待外交」を政府が戦略的に実現することを大いに期待したい。（了）

「少子化」

佐藤 道生 (理事)

少子化対策では子育て対策が派手に出っていますが、本音は将来の社会保障と介護を負担する若者がいなくなることを危惧しているのではないかと勘ぐってしまいます。これでは兵隊が欲しい為に「産めよ増やせよ」と言った戦前の考えと同じで、若い人は却って不安を感じるのではないかと思います。

現在の人口構成では、よしんば出生率を2.0に近づけたとしても平成60年には1億人を切ることは確実とされています。それならばターゲットを、現実味のある人口想定を前提にしてもっと住みやすい日本（今少子化対策でやっている子育て支援を含めて）にするハード、ソフト両面でのインフラ設計をして施策を実行した方が若者の共感を呼ぶのではないのでしょうか？

現在のペースでは2千年後には人間の総重量が地球と同じになると想定されている時、人口減でも快適に暮らせると言う先鞭を日本がつけければ嬉しいですね。（了）

ご投稿はこちらまで⇒ Eメール:kaiin@spjd.or.jp Fax:03-5401-2124